

宮地家の秘密



宮地家住宅について

宮地家住宅は、明治8年(1875年、約140年前)の高山の町を焼き尽くした火事の後、明治12年(1879年)までに建てられた建物です。主屋の階段の裏に明治12年の墨書(墨で書いた文書)が残っています。主屋の木材は、現在の高山市丹生川町三之瀬の山から調達したと伝えられています。江戸時代の面影を強く残し、当時の一般的な住宅であることから平成12年に高山市の文化財として指定されました。

絵図などからは、高山の町が四方の街道沿いに発展していった様子を見て取ることができます。特に宮地家の前を通っていた越中街道は、富山湾からの魚が入って来る重要な道でした。越中街道沿いには、米屋、酒屋などの商店や、春慶塗、石工、大工などの職人も多く住んでいました。多くの家で周辺に畑や田んぼを持ち、養蚕や農業なども行っており、半農半商的な生業を営んでいました。主屋正面には馬を繋ぐための鉄の輪「馬つなぎかん」があります。土蔵の横には牛馬を飼っており、家畜が出て行かないようにするための「ませんぼ」(柵)を挿す穴が残っています。

建物は主屋が道路に面して建ち、敷地奥には中庭を挟んで土蔵が並んでいます。主屋南側には「とおりどじ」があり、土蔵前まで土足のまま行くことが出来ました。主屋は道路に面する部分を商店として使うとともに、居住のための場所でした。中庭は植物などを植えて鑑賞の空間とし、風を通し光を取り入れるための重要な場所でした。土蔵は倉庫として使い、また火災の時には家財道具を守るためのものでした。

電気も水道もない時代の建物ですが、快適に暮らすための知恵がたくさん詰まっています。ゆっくりと内部をご見学ください。

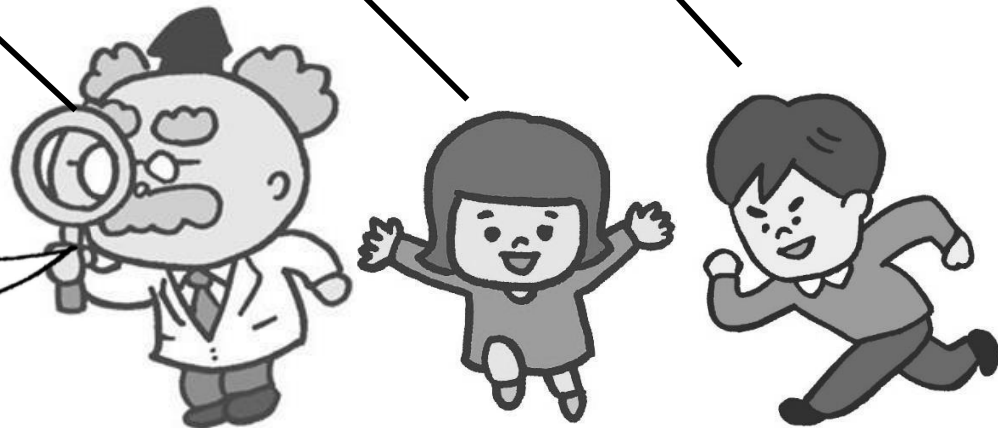
名称	宮地家住宅
市指定年月日	平成12年5月22日
所有者	高山市
所在地	大新町2丁目44番地
時代	19世紀後半
員数	2棟 敷地
法量等	主屋(1棟) 附下屋 間口3間半(6.14m)、奥行6間(10.96m) 土蔵(1棟) 附下造倉庫 間口2間半(5.02m)、奥行3間 中庭を含めた敷地全体

まちなみ博士
高山の歴史の事なら
なんでも知ってる博士だよ

みーちゃん

まーくん

私たちと秘密
を調べよう!

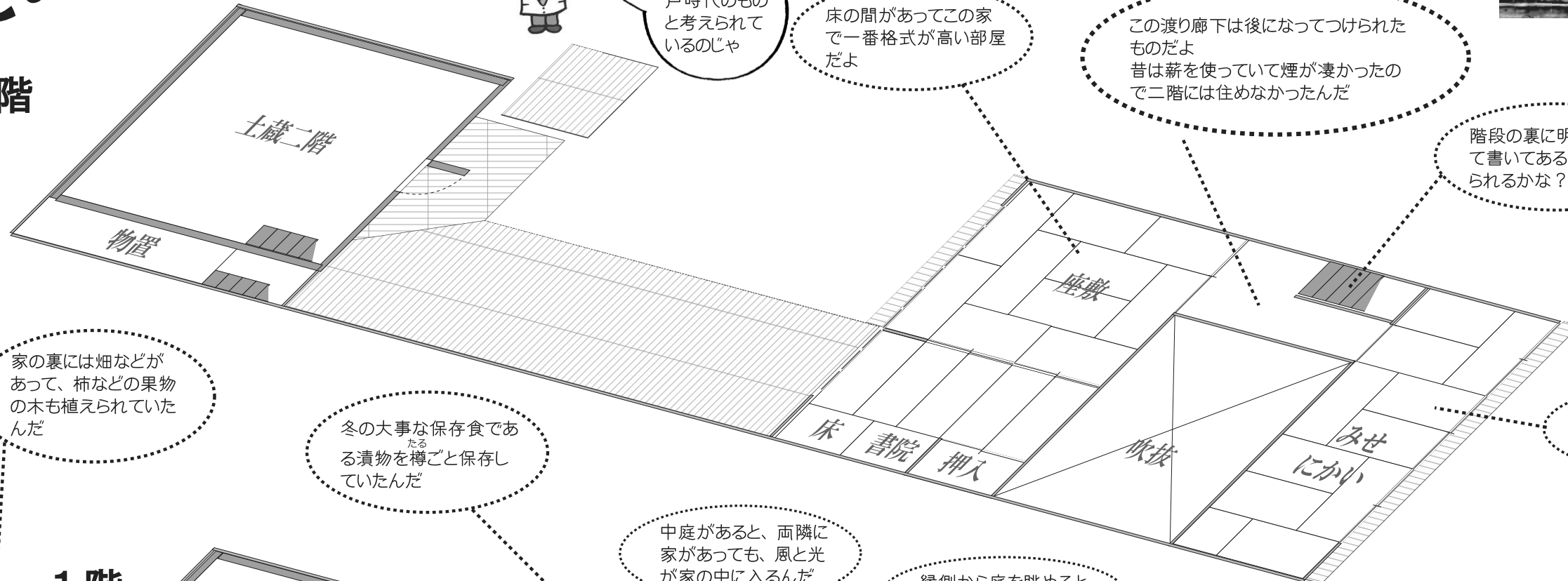


◆見学について◆

入館料	無料
開館日	土曜・日曜・祝日及び秋の高山祭期間
開館時間	午前9時～午後4時30分
問合せ先	0577-32-8208(開館日) 0577-34-6550(開館日以外)

宮地家の秘密を すみからすみまで 探ってみよう!

2階



蔵の壁ってすごく厚い!

火事になっても中の大切なものを守ってくれるのじゃ

この土蔵は江戸時代のも
と考えられているのじゃ

床の間があってこの家
で一番格式が高い部屋
だよ

一軒当たりの土地はとても細長く「う
なぎの寝床」などといわれたりするよ

屋根には元々は木の板をいっぱい並
べて石で押さえていたんだよ

この渡り廊下は後になってつけられた
ものだよ
昔は薪を使っていて煙が凄かったの
で二階には住めなかったんだ

階段の裏に明治12年つ
て書いてあるのを見つけ
られるかな?

天井が低いから気を付
けて!

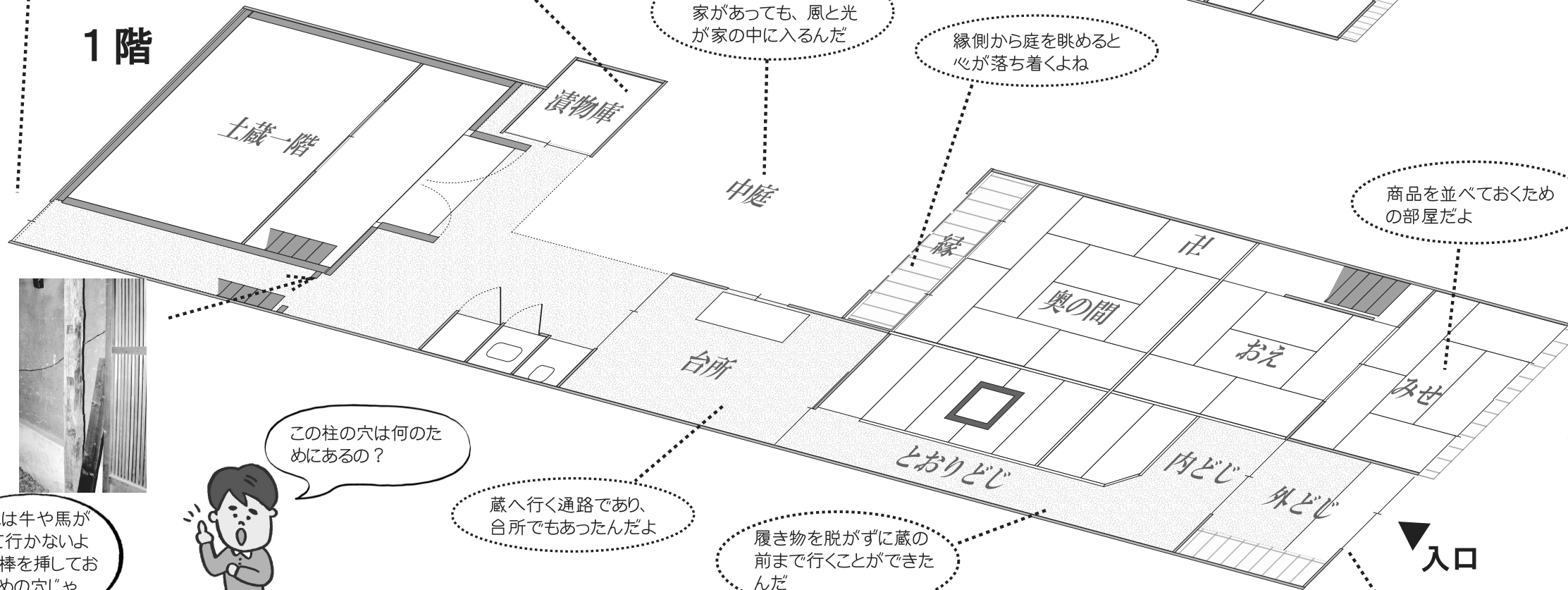
家の裏には畑などが
あって、柿などの果物
の木も植えられていた
んだ

冬の大事な保存食であ
る漬物を樽ごと保存し
ていたんだ

中庭があると、両隣に
家があっても、風と光
が家の中に入るんだ

縁側から庭を眺めると
心が落ち着くよね

1階



細い木がいっぱい並ん
でいるね

商品を並べておくため
の部屋だよ

これは格子といって光は
通るけど人は通れない
ものなんじゃ

昔は「しとみ戸」
があって全部開
けることができた
んじゃよ

この柱の穴は何のため
にあるの?

蔵へ行く通路であり、
台所でもあったんだよ

履き物を脱がずに蔵の
前まで行くことができた
んだ

入口

昼間は大きな戸を開け、夜は大き
な戸を閉めてその中にある小さな戸
から出入りしたんだよ

これは牛や馬が
出て行かないよ
うに棒を挿してお
くための穴じゃ

牛や馬は、大事だったので家
の中で飼ったんじゃ

